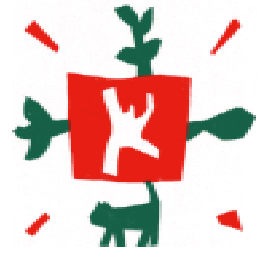




# 共同通信



2006年12月7日 124号(334号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22  
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ざしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 24

『“西宮共同教会”を生きた人たち』

1970年3月1日、当時の園舎のホールに雛段をこしらえていただいて、若い1組のカップルの新しいスタートを祝っていただきました。多様な関係の仲間が集まってきてくれていっぱいになっていたそのホール、雛段から見て左の遠く隅におられたのが、松下愛子さん紀美子さん、松永愛子さん、白崎緑さん、近藤廣子さんなどのその後、順に神様の御許にお送りすることになっていく方々でした。はしゃぐ若者たちを見守りながら遠くから参列した両親などのために熱いお茶を届けてくださったりしておられたのが印象に残っています。若者というより今思えば、ばか者だったなあ、お一人おひとりに丁寧にご挨拶をした記憶がありません。

そんな未熟者を迎えてくださった皆さん、先日亡くなられた近藤さんが86歳でしたから50代に入られたばかり、他の方々は40代から60代でした。まさしく今の自分です。そしてここ西宮共同教会での生活が始まっていきます。今のように菅澤は教職ではまだありませんでしたから、実に呑気なものでした。でも創立30年を超えての歩みを進めていた教会は全体に陰りを見せはじめていました。詳しいことはよくわかりませんが、大きな理由は当時の2代目の牧師を幹事会が主になって解任しようとしていたこと、それに対して青年会の一部が中心になって猛烈に反対していたということです。その牧師が云々ではなく「どんな理由があ

るにせよ、人が人を審いてはならない、そんなふうに聞いたように思いますが、教会の近く(青木町)に住まいしていたわたしたちを牧師夫人が子どもを抱えて泣きながら訪れてこられたり、日曜日の幹事会のあとに牧師が顔面を真っ赤にして、飛び込んでこられたり。そんな瑣末なことだけは覚えています。11月18日に執り行われた近藤さんの告別式には来られないがとのことで、1988年から91年まで副牧師としてここ共同に在任され、今は福山東教会の鳥居先生がお手紙を届けてくださいました。そこに「70年代の闘争の生き証人がまた亡くなられましたね」と書いておられました。そうその後若者を支えてそして西宮共同教会にこだわり続けてくださった、1970年3月1日にわたしたちを祝い、仲間に迎えてくださった、当時の婦人会の方々を順に見送らせていただいていたのが、あの日からの37年近くの年月ということになります。

今は事務所におられる植田さんのご母堂の辻野マツエさん、高齢になり体調もすぐれないこともあって年に数度くらいしかお会いできない山元さん、先年ご家族で見送られた田中ノブエさんなどと一緒にバザーで喫茶店をしたのがとても懐かしいです。辻野さんはおぜんざいなど小豆ものが上手でした。山元さんはたくさんシュークリームを作ってくられて、若者はそんな婦人会に仲間入りさせてもらって秋の1日を楽しんだものです。しかしその後益々教会は険悪な状況になっていきます。解

任総会こそ行われなかったのですが、それに近い怒号も飛び交うこともあったように思います。青年達も2手に分かれていました。「解任なんて傲慢なことをするのは間違っている」と主張した青年達も相当に過激でした。そして80人位だった礼拝は段々減っていきましたが、でもどんなになっても礼拝は守られていました。尼崎から出席されていた白崎さんは必ずお花を活けに来られていました。71年に第一子を76年に第二子を出産し、当時育児時間もない中で時差出勤のある保育所でしかも今より長時間の勤務をしていたわたしは、仕事と子育てが主で72年頃からの3、4年はあまり教会のことが記憶にありません。一番大事な時期だったはずなのに。ただ今までお名前を挙げてきた方々が産後に家を訪ねてくださり、子どもを預けて職場復帰することにそれぞれの立場で熱心に意見を言うてくださっていたのがとても心に残っています。決まっていなかった預け先のこともそれはそれは心配していただきました。教会がそれなりに落ち着き、幼稚園のお母さん方も礼拝に来られるようになったり、イースターやクリスマスなどの記念の礼拝後は、持ちよりの愛餐会を持つのがとても楽しみになり～というように安定したのを確かめるようにして、皆さんの心の要だった松下愛子さんを天上人と送ることになりました。79年の夏です。いつしか3人の子どもの親になり、少しはましになっていたのでしょうか。愛子さんのご友人に働き

を褒めていただいたのですが、それがまた自分の足許を見るいい機会にもなりました。その後も母親のような存在の皆さんの中のお一人、寺岡さんが宮崎に帰られるというお別れがあったり、お花にこだわられた白崎さんをお見送りしたり、いろいろなお別れがありました。細々となっていた婦人会をどうしようかということで、何度か話し合いが持たれましたが、90年くらいから毎月のように花を愛でにいく機会を持つことになりました。その折々の写真を近藤さんは大事にしておられました。前夜式のあとでそれを眺めてほんといろんな場面が思い出されました。そしてあの震災、その前年から入院しておられた辻野さんを5月にお見送りすることになります。お別れのことばは松永さんでした。同じ88歳でした。それからの礼拝の中で左2列目の椅子、その左端に座る松永さん、3～4列目の右端に座る近藤さん、そのお二人の姿はそれまでと同様、礼拝になくはならぬものになります。

世紀が変わるところから少しずつお身体がままならぬようになっていかれはしたものの、ずっと「人間はね、教会に行かなくっちゃ。わたしは教会に行ってきたから少しはましな人間になれたんですよ。教会がなかったら今のような恵みのある人生の最後はなかった。」そう礼拝にこだわり続けられた松永さんとお別れがとうとう去る2月にやってきました。5月に99歳を迎えられるのに、今年のイースターで、1年早いけれど1

00歳をみんなでお祝いしよう、そう思ってきたのでそのことが今でも惜しまれて悔やまれてなりません。松永さんが辻野さんのお別れのことばを椅子に座って述べられたように、近藤さんが椅子に掛けられて松永さんを偲ぶ挨拶をされました。そしてその後体調を崩していかれました。最後に果たされた近藤さんでなくてはならない大役でした。「あなたはどんな時も若い牧師夫妻のことを祈り続けておられましたね」と語りかけておられました。菅澤が公会に神学生として加わった1967年から、若い未熟な家庭が誕生してからの日々、祈り続けていただいて今があると思っています。震災で一旦途絶えた共同通信が、1996年復刊の運びとなりました。復刊の意味を大きく持った「To Tell The Story」のトップを書いたのが近藤さん。松永さんは1998年9月に聞き書きとして、そして辻野さんのことは2003年に私が書かせて頂きました。

大役を果たされたものの、その後入院が続きます。兵庫医科大学、さそう病院、そして最後亡くなられた西宮回生病院。教会の礼拝に出ることをとても楽しみにしながらとうとう11月16日天上に召されました。夏に鳥居先生ご夫妻を病院にご一緒していたこともあって、前述の手紙の中に「安堵も覚えた」と添えられていましたが、そう思うほど病気との日々は生易しいものではなかったと思います。それでも小康状態の続き

た10月16日、病院近くのレストランで食事をし、そして香櫨園の浜を車椅子で散歩をします。その楽しかった時間のことの喜びをはがきにも次のようにしたためていただきました。「毎日おかゆと煮魚と味噌汁にサラダであきあきする日を過ごしています。久しぶりに楽しい顔ぶれで変わった食事を楽しむことが出来てよかったです。その上長時間車椅子をおして載いて有難うございました。つかれさせて御免なさい。」

でもその後詰め所横の病室に変わられてそして最後の日を迎えられたのでした。松永さんをご自宅に見舞うとよくテーブルの上に週報が置かれていました。近藤さんも逐一お届けするものに目を通しておられ、的確なコメントをされていました。生きておられたらこの文章をどう読まれるでしょうか。明るい色が好きでした。兵庫医大の10階の喫茶でジュースを飲まれた時、病室にいるとこんな綺麗な色に出会えないとしばしそのジュースを眺めておられました。花のアレンジを届けると見入っておられました。絵心の豊かな方でしたので色には敏感だったと思います。

11日が公同まつり、その前々日に病院へ行かれた守屋さんから尋常な状態ではないことの報告を受けます。おまつりの翌日田中先生が見舞ってこられ、その報告からやはり緊急の様子を感じたわたしたちは月曜、火曜と様子をのぞきに行きますが、苦しめる姿に手も足も出ずにそっと病室をあとにしました。そして水曜

日どんなに苦しまれていてもその事実から逃げずに、できる限りご一緒しようと思いついて午後向かいました。痛み止めが処方されたことを知ります。用紙にある“モヒ”というような文字を目にしてひょっとしてと思いました。点滴で風船のように右手が手から腕まで腫れ上がり、点滴を一旦お休みしてもらいました。ホッとする間もなく左手の輸血が漏れているのが見えます。これまた外していただきました。どうですか？と尋ねられた看護師さんに「今ね、ずっとマッサージして下さったから楽になってるの」と返事をされました。わたしには「そんなふうにしてくれる手はこの病院にはないのかしらね」と言われ、明日からもみんなでマッサージに来よう、そして次は熱いお湯をもってきてタオルで首とかにあててあげよう、そう思い、両手が自由になり薬が効いて痛みを訴えられなくなったのを機に病室をあとに。でもたったそんな小さな決意をしたわたしに、お返しをしたいと願ったわたしに、「そんなに忙しくしないでいいわよ」と言わんばかりの、翌日の昼前のあっという間の旅立ちだったのでした。

鳥居先生の手紙にはまた「教職のことを思いやったださる方でした」ともありました。田中先生が日曜日に訪ねられた際に「あなたは次どうなるの？」と聞かれたそうです。副牧師の任期は3年です。それが来年3月に来ることをあの苦しみの中で気遣ってくださっていたのですね。結

婚すること、牧師として招聘もされること、23日に婚約式が予定されていることを話されるとそれを聞かれてとても安心されたそうです。安食に赴任された庄司先生の教会の土地取得のための献金、秋田の山口先生には教会新築のためにとそれぞれの働きを思いやっけていつも心遣いを忘れない方でした。庄司先生は愛知に転任されていたこともあり、告別式に駆けつけてきてくださいました。そして親子3人で、また70年代の青年二宮さんも教会からの出棺を担われました。共に教会生活を過ごした多くの仲間に見送られて大好きな花に囲まれて、悲しいけれど、実のこもったお別れの時間を過ごせたと思っています。

こうしてお別れの間を持つことができたことを牧師が感謝していました。若さ故に至らなかった存在も当時の中心になられていた方々の年齢に段々到達し、お世話になった皆さんを少しでもお世話してそして心をこめてご本人はもとよりご遺族にも納得のいく葬儀をとお送りすることを大事にしてきた年月。「近藤さんをお送りするまでは元気でがんばりますから」と繰り返し言ってきたこともあって、2006年の最後の月を迎えるにあたり、ホッとする思いを越えて少しボーッとしているというのが正直なところです。教会の大事な仲間を高齢とはいえ、2人もお送りした2006年という1年でした。讃美歌を手にする時、「とこよにさむるそのとき〜」とよく口にされていました。永い眠りにつかれた近藤さ

んの姿にご自宅で寄り添いながら、それはそれは整頓されている飾り棚に並んでいる聖書と讃美歌を見つけ、ひょっとしてと手にとりました。何事も器用な方でしたが、2冊共ご自身の手による美しい刺繍がされた布の表紙がつけられています。288番にしおりが、そして354番にも。やっぱり！告別の式ではその2曲を歌わせていただきました。光の道しるべに支えられて神の国への旅路を進んでいかれたことと思います。一緒にいろいろな方をお送りしてきた時にいつも「わたしの時はね」と言われていました。手厳しいお方でしたが、40年を菅澤を支え教会と共に生きてきてくださって今、わたしたちに何点をつけてくださっているのでしょうか。近藤さんの告別式には教会を代表して前田貞枝さんがお別れの挨拶をされました。以下はその文章です。（菅澤順子）

近藤さん、近藤さんとのお別れが、こんなに早く、突然のように来てしまうなんて思ってもいませんでした。9月17日に病院でお会いしたのが私には最後になってしまいました。その後教会の皆さんと病院から車椅子を使ってお食事にも行かれ、川べりを散歩などもされて、よく召し上がり、まずまずのお元気であったと聞いておりました。

教会には近藤さんとのお付き合いが私よりもずーっと長い方もおられますのに、今日このような場で、私のような者が最後のご挨拶をさせてい

ただくのは、心苦しくもあります。

もうすぐクリスマスがまいります。近藤さんには毎年クリスマスカードを差し上げておりました。それはそのお返事にいただける、干支の絵の見事な版画の年賀状がほんとに楽しみだったからでもあります。今年もすでに先週、東京に行った時に銀座の鳩居堂で病床にある近藤さんのことを思いながら、あれやこれやと迷いつつ、買い求めたばかりのところでした。しかしお返事をいただきたかった私の下心はうち砕かれました。来年のいのししは私のところにやって来ません。「12枚そろうまでは元気でいてね。」と毎年お願いしていたのに。

絵手紙をいただいたこともありません。カラフルなおもちゃの自動車が描いてあり「電池切れでしばらくお休み。」と添え書きしてありました。近藤さんお疲れなのかなーと、しばらく気がかりでした。教会のことを思いやってお便りでした。1998年6月のことです。油絵もいただいています。何点か見せて下さり、「好きなものをあげますよ」と言われました。カーネーションとミモザが描かれた華やかな明るい色調です。

近藤さんは、私たちが黒っぽいモノトーンのものばかり着ていると、「近頃の若い人は地味なものばかり着るのね」と少々御不満のようでした。ご自分は自分で編まれた、すばらしく美しい緑の軽やかなカーディガンをお召しで、白い髪とよく似合っていました。私の知っている近藤さんは、こんな風に私たちを楽しませて

下さった方でした。

また私がこの教会に来るずっと以前より、長い間教会のために尽力され、会計も預かってこられ、入れものは立派でも台所は苦しい教会の内実をよく御存知で、献金もたくさんしていただき、助けて下さいました。「もう年だから」と幹事の仕事を私たち次の世代にゆずった後も、その時々鋭い意見を述べて下さり、教会にはいつまでも大きな存在でした。この教会の牧師は時として暴走しがちで、わたしたちはイライラしているだけでしたが、そんな時でも近藤さんは厳しく、言うことは言うという態度で本当に頼もしく、なくてはならない方でした。

もうしばらく私たちと共にいて欲しかった。残されたノートの最後にこんな俳句でしょうか、言葉を書き付けておられます。

“黒豆のシーズンには出かけた”

「年が明けたら教会に行きたい」と近藤さんは思っていたのでしよう。ご一緒に新年の礼拝を守りたかった。

私たちにかげがえのないたくさんものものを残して下さった近藤さん。ありがとうございました。こんな私だけのおしゃべりのようなお別れのことばでごめんなさい。私たちの測り知れない悩みからもすべて解き放たれて、神さまのもとで安らかにお休み下さい。

2006年11月18日

前田貞枝

自然界の美～その頂点が、彼女の愛する屋敷と庭園なのであるが～に加え、もうひとつ彼女の想像力に火をつけ、まばゆいばかりか光を発するようにさせているものがある。それは、軽視されている者、人間としての存在を執拗に攻撃されている者、自分らしく生きようとするのを抑圧されている者、それすらすべての人々たちに対する仕打ちへの憤りをこめた同情の念である。

(ルーシー・M・ボストン自伝、序より)

ほぼ毎週礼拝の説教をさせてもらっています。その説教から“たとえ”にあたる部分を削り取るようにして共同通信の聖書についての文章を書いています。きちんと聖書を読める訳ではありませんが、自分の主張に聖書をはめ込んでしまう、ということとはしてこなかったつもりです。元々が貧しい理解力で聖書と向かい合うのですが、全くいいかげんではないことを大切にしています。共同通信では“説教”を書かないことになってきたのですが、以下11月23日の婚約式でした説教・式辞の要約です。

創世記2章18節には「・・・また

主なる神は言われた『人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう』と書かれています。そうして造られた“野のあらゆる獣”“空のあらゆる鳥”は人と同じように大切なものであったとしても“ふさわしい助け手”ということにはなりませんでした。

中島みゆきの“宙船(そらふね)”はいい歌です。TOKIが歌っていて、最近自分でも歌うCDが発売されています。船即ち海としない着想が大事な歌です。人が生きる“人生”として繰り広げられてきたものは誰一人同じではありません。そして、驚きをもって迎えられるほど時には深かつ

日本基督教団西宮公会集會案内		
早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会集會室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会禮拜堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会禮拜堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮公会集會室

たりするのも、人が生きる人生です。人生がぼろぼろであったとしてもあり得ることです。完全なのが人生ではなくて、不完全でぼろぼろであったりするのが人が生きる人生です。そして、だから取るに足らないとはいけないのが人が生きる人生であると思ってきました。

そうして人として生きていて、ある他者の存在のことで、平静ではいられないということが起こります。そうして、平静ではいられない他者との結びつきが結婚という営みになったりもします。そんな時に、強い思いが働き、このことではゆるがないという自覚が生まれたりします。しますが実のところ、気付いていないこと、見えていないことが多々あったりします。

たまたま、それらのことに気づき、見えたりした時に、がまんできなかつたりします。創世記が書くところの“ふさわしい助け手”が、全くそうではなくなつたりします。ただのぼろぼろとしかうつらなかつたりしてしまうのです。

ところで創世記は、“ふさわしい助け手”が、簡単にころがり込んだりするとは決して考えていませんでした。2章21～25節には、並ではない“ふさわしい助け手”2人”の関係の

ことが書かれています。「・・・彼は寝込んだ。そこで、彼の肋骨一本を取り」ふさわしい助け手は造られます。更にふさわしい助け手のことを、「・・・いまや、これこそ、わが骨の骨、わが肉の肉、彼女は妻(イシャー)と呼ばれる、夫(イーシュ)からとられたものだから」と書きます。“肋骨一本を取り”造ったのですから、“わが骨の骨、わが肉の肉”と言ったとしてもあり得ることです。それだけではなく、「・・・互いに向かい合い、名を呼び合い、互いに支え合う対等な他者である」ことがふさわしい助け手には期待されます(「創世記」月本昭男)。更に、期待され、求められるのが、「それゆえ、夫はその父と母を見放して、その妻と結び合い、ふたりは一体となる」ことです。人はただふさわしい助け手と出会うだけでは足りないと、創世記を書いた人たちは考えていました。“その父と母を見放す”ことが求められます。“見放す”のは、そのことを実行する強い意志がないとできません。たとえば“ふさわしい助け手”が“父と母”のどちらか選ばなければならないのです。父と母を選ぶ限り、人がふさわしい助け手と生きることはあり得ません。父と母を見放すのは、父と母からの脱出であり、保護を受けることの拒



否も意味します。結果守られることのない恐れに身をさらすことにもなります。“ 独り立ち ” です。父と母を見放して独り立ちしない限り、ふさわしい助け手との歩み、結婚などそもそもあり得ません。

そうして始まった営みであるにもかかわらず、人の生きる事実はその初めから、あるいは気が付いてみれば不完全でぼろぼろであったりします。何がなんでも耐えるのでも、さっさと退却してしまうのでもない、ぼ

ろぼろの中に、ひとかけらの真理を見つける旅がそこで始まります。だとすれば人として生きることを放棄はできないはずで、そんなことを誰よりも望んでいるのは、ふさわしい助け手が人には必要であるとした神であるとすれば、なおさらそれを放棄する訳には行きません。そんな時にこそ、人として生きる真価が問われています。

(菅澤邦明)

---

## ア コ ー ク ロ ー 通 信 ( 1 0 5 )

多くの皆さんにご支援をいただいた「沖縄県知事選挙」は、ご承知のように 3万7000票余の差で系数慶子さんは負けてしまいました。単純に「基地か経済か」を選択したというのではなく、さまざまな沖縄状況のなかでこういう結果になったのです。

もちろん、出遅れ、候補者選定のしこり、政党・団体の思惑がうごめき、加えて期日前投票が全有権者の1割を越え、違法なビラ、ポスター、ステッカーが沖縄中を覆いつくすというすさまじい選挙でした。一説には当選した候補は総額30億円使ったという話まであります。事実、当日の

出口調査では系数候補が優勢で、負けたのは企業・宗教団体による期日前投票分ということになるのですから、健闘したともいえます。

しかし選挙は負ければ何もなしです。沖縄が今後どうなるか、日本がどうなるか暗澹たる思いです。

私たちが沖縄のさまざまな人々、とりわけ結果的に相手候補を支持した人々、系数候補を支持した人々ともっと互いの理解を深めるべきでした。日常の議論のないところに選挙で基地を持ち出しても十分ではありません。選挙期間中、本来こちら側の陣営であるべき一部の人々は、候補

者選定過程で名前があがった一人を推した人々は、全く何もしてませんでした。驚くべきできごとで、彼ら・彼女らのサボタージュは歴史に残るでしょう。

ホント、沖縄はどうなるのか、圧倒的な国家権力の前に先鋭的な闘いとそれから離れていく人々と二極化するのでしょうか。

さて、もう12月です。2年間の大学院生活も最後の論文提出が間に迫っています。よくいえば自由にさせてくれる学校でしたが、できたばかりで教務体制はなくなって、コピーカードや図書申請は遅れに遅れました。

「韓国の家族・女性観・諸相」のようなもの、儒教から日本帝国主義支配、戸主制廃止、「大長今」から「冬ソナ」までちりばめて書くのです。社会学と歴史学を混ぜたような関心で、本来は韓国のキリスト教にまで言及するつもりだったのですが、今回そこまでは無理のようです。何をいい歳をしてやってるか、これも特段の理由はないのですが、沖縄であんまり勉強する機会がなく、枠組みのない勉強よりルールに乗ったほうがいいと思ったからです。近年、大学はほぼ全入、大学の生き残り策で、目新しい学科、社会人が入れ学べる大学院などが流行です。それにまんまと乗せられたわけです。

おかげで、あまり映画見ることができませんが、11月今年74本目の「蟻と兵隊」を見ました。来年は1年100本、といたいところですが、「学割」3月まで。

「愛の園」、知的障がい者の通所授産施設、那覇から東に30分の与那原にあります。社会福祉法人施設で、他に児童養護施設も同じ敷地内で運営されています。歴史の長い施設で、ある意味遅れた運営形態で体質改善ができていません。ともあれ、利用者第一に考えられるべきですが、「障害者自立支援法」で散々な運営を余儀なくされています。

などなど、2006年の沖縄、後藤にとっては沖縄で9回目のクリスマスを迎える季節になりました。この2、3日、寒くなったとはいえ最低気温は19度、米軍の住宅ではイルミネーションが飾られています。夜、その明かりはこうこうと輝いているのですが、電気代は日本国民の税金です。もうかるのは、今度県知事になった人が社長、会長を勤めた沖縄電力です。

ともあれ、よいクリスマスをお迎えください。

(沖縄・与那原 後藤 聡)

## 2006年12月 あんなこと こんなこと...

- 1 2月 日(金) 早天祈祷会
- 1 2月 田(火) 午前 10時～、ゆっくり聖書を読んでもみませんか  
ミニミニクリスマスディナーあり、参加費300円  
西宮公会堂集会室にて。  
「クイズ」でキリスト教周辺に迫る Quiz クイズでいろいろ遊ぶ」
- 1 2月 田(火) 午後 4時 30分～、合同子どもクリスマス会  
(午後 4時開場)
- 1 2月 2日(日) 午前 10時 45分～、クリスマス礼拝  
午後 6時～、キャンドルサービス、キャロリング

### にしきた商店街...

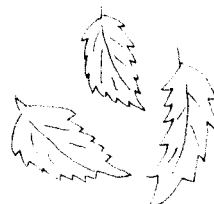
- ・ 1 2月 日(金) イルミネーション合同点灯式～光でつながろう～  
午後 5時 30分～まちかどコンサート  
午後 6時～点灯セレモニー 於：芸文センター前高松公園
- ・ 1 2月 日(日) 午後 12時 30分～、津門川掃除
- ・ 1 2月 日(金)～ 1 2月 2日(日)まで  
“NISHIKIアザヤンのクリスマス”が行われます。  
詳細は 1 8頁予定表をごらん下さい。

### アートガレージ

- ・ 野菜市：1 2月 5日(火)、2 日(火) 2 日はもちつきあり。
- ・ 1 2月 1 日(日)～ 1 9日(火)クリスマスグッズ展

### 関西神学塾

- ・ 1 2月 日(金) 桑原重夫先生「使徒行伝を読んでもみよう」
- ・ 1 2月 1 日(金) 田川建三先生「マルコ福音書註解(中)」
- ・ 1 2月 2 日(金) 勝村弘也先生「死海文書を読む」



## 私が出会ったいろんな人たち

以前にも一度、書いたことのある「青年の会？」(若者たちの集い)第2回が教会で行われました。以前より事務局会や総合ビル運営委員会などで、若者たちの役割について意見が出されていました。教区の青年会に参加することはありましたが、教会にこんなにもたくさん若者たちが集まっているのだから、ぜひ一度みんなが集まる機会を設けてみては？というご意見でした。

教会には特に「青年会」や「婦人会」「壮年会」などはありません。人数が集まらなかったからなのか、意図的に設けていなかったのかはわかりませんが、みんなで昼食を食べたり、一緒に話をしたり、行事に参加したりすることが多くありました。ですが、幼稚園の先生方が9名も教会に出席して下さっているということもあり、本当に他の教会よりも平均年齢が若く、若者たちはたくさん教会の働き・活動を助けてくれています。

そんな若者たちによって担われているのが「たのしい学習塾」でもあります。勉強がきらいにならない、学んで本当はとってもおもしろいこと、お兄さんたちに教えてもらって一緒にする遊びはとてもおもしろい！などなど。とても素敵な空間が広がっているのがたのしい学習塾です。勉強がもりもり出来るようにな

るという塾でもなく、どんどん数をこなして点数で判断される塾とも少し違う。でも勉強はしっかりやる！というのがスタッフのお兄さんたち、そして塾の方法です。

そんな若者たちに声を掛けて、以前は毎日のように教会や幼稚園に出入りしていたけれども就職後はなかなか教会に来られない忙しい若者も、久しぶりにみんなと顔を合わせる機会にもなりました。第1回目は「飲みにいきましょう～」という簡単な交わりの時を持ちました。おいしい酒屋さん「たけなか」へ！そして第2回は「映画会！」です。順子先生、大藪さんお墨付きの『かもめ食堂』をのんびりと観た後、残れる人たちでドリーム(喫茶店)へおいしい珈琲&紅茶を飲みにいきました。「次回は体動かそうよ！」などという元気のいい意見も出たりしました。幼稚園の先生方も毎日フルに働いている後も、このようにして元気良く盛り上げて下さっていることに感謝しています。女性も男性も関係なくゆっくりとお茶を飲みながらなんてことない会話をしたりして、「若者の集い」という集まりが計画されていない日にも、こんなふうに気付いたら集まってご飯など食べて喋り込んでいたね～なんていう日が来たら楽しいなと思っています。(田中知恵)

## 葉っぱも色づき始めました

秋が深まり、寒さもだんだんと厳しくなってきました。秋になるといろいろなところで葉っぱが色づき始め、お散歩のときにみんなで眺めたり、落ち葉で遊んだりします。園庭のイチヨウの葉もいつの間にか色づき、けやきの葉っぱもたくさん落ちています。朝の掃除はいつもよりも時間がかかり、子ども達が来る前の朝の園庭は掃除をするクマデの音が響き渡っているのです。

集められた落ち葉は畑の肥料になります。先日は畑へ行って、いちごの苗を植えました。苗を持つ手はお皿のようにし、大事に大事に運んでいるその姿ときたら！なんともいえず、かわいらしいのです。畑の畝にいちごの苗を植えた子ども達。「私たちは食べれるの？」そんな心配をしている年長さんもいましたが、ひとつひとつ丁寧に苗を植えてくれました。自然の恵みに感謝をし、また来年、真っ赤ないちごに出会えることをたのしみに行っているみんなです。

先日は『ミニおまつり』が行われました。こうどうまつりを目一杯楽しんだ幼稚園のお友だちですが、まだまだお楽しみは続きます。いつも、ドキドキ・わくわく、楽しいことが起こってしまうのが、共同幼稚園です。ミニおまつりではわたがしやあめせんべいが再登場。ゲームも役員のお母様方が用意してくださり、公同ま

つりに負けないくらいステキな時間を過ごすことができました。中でもスペシャルおやつはムカゴと幼稚園で取れたサツマイモのてんぷら。おかわりコールが殺到の、揚げたてアツアツをいただきました。おいしい、楽しいを存分に味わったおともだち。そんな子ども達の姿を見ることが出来たのはたくさんのお母様方がご協力してくださったからだと感じました。ありがとうございました。

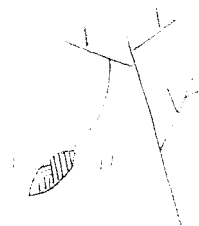
年長組のおともだちは1 冊の終わりからお天気がよければ一週間に一度、六甲の山登りに出かけています。行くたびに姿を変える山にも注目ですが、力強くなっていく子どもたちの姿をを見ていると、本当に感心させられます。実は1 2歩も歩いたんだということを幼稚園に帰ってから園長先生と地図を見て一緒に確認した時の驚きといたら！そんなに歩いてるなんて！！と本当にビックリしてしまいました。驚きましたが年長組のみんなが歩いたという事実をととても誇りに思い、私も一緒に体験させてもらっているということを幸せに思っています。みんなはそんなに歩いたって感じているかな？山登りの最中はおしゃべりに花が咲いたり、歌をうたったりしていて気付いたら頂上だった～なんてこともありました。山登りの後、有馬温泉へも行きました。『ぼかぼかするなあ』『疲れがふっとびました！』なん言って

てるお友だちもいて、年長組ならではのおでかけを満喫。温泉から出たあとのピンク色のほっぺをしたみんながまたかわいかったのです。

12月にはいるとクリスマス あちこちで、クリスマスソングが聞こえてきそうですね お友だちと一緒にクリスマス、そして12月を思いっ

きりエンジョイしたいと思います。まだまだお楽しみは続きそうです

(三谷春名)



## 大切な贈り物・津門川 52

“ 週の半分はながめている風景 ”

- ・ 秘かに『水辺の哲学者』と呼んでいるシラサギやコイサギ
- ・ 隊列を組んでパトロールをしているようなカモの集団
- ・ 兵営の横あたりで井戸端(?)会議中のコイの群れ

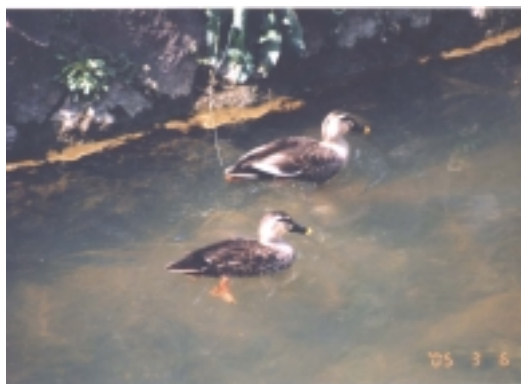
何気なく見ていると、何てことない川、でもちょっとだけ気合いを入れて見てみるとナマズもいるし、鮎もいる(らしい)。数年前にはどこからともなく『ヌートリア』も遊びにやってきた。『どうだ!』という自己主張もしないけど、ひっそりとも確かに季節のうつろいを教えてくれる川。

そしていつのまにか飾られた電飾がクリスマスシーズンの到来を告げていた。

サギもカモも魚も見えない暗闇に

浮かび上がる光の生きものたち。見ているだけでドキドキ、ワクワクさせられる川ってここだけかもしれないなあ。

(津田まゆみ)



# 教会学校から

## 《1月の活動報告》

- 1月 日(金) 幼稚園の運動会に参加しました。チョンチョンキジムナーのダンスやリレーに参加し、おもいっきり楽しみました。
- 1月 日(日) 柿むき競争！幼稚園で収穫されたお芋・むかごご飯を食べました。
- 1月 1日(土) 公同まつり 200でした。
- 1月 1日(日) クレパスを使って、津門川風景のぬり絵をしました。下地の絵は岡理恵さんに描いて頂きました。それぞれに楽しい絵が出来上がり、兵庫県立健康科学環境学習センターの古武家先生を通して、タイの子どもたちの絵と交換することになりました。
- 1月 1日(日) 福永年久さんを招いてお話を聞いたりクイズをしました。
- 1月 2日(日) クリスマスキャンドル用の和紙を染めたり、絵の具で模様を付けたりしました。また、須磨浦公園の海岸でお母さんたちが拾って来て下さったたくさんの貝殻で貝の口ウソクを作りました。

## 《1月の活動予定》

- 1月 日(日) 青森から届いたりんごの皮むき競争をしよう！
- 1月 1日(土) わがまちクリーン大作戦に参加するぞ！
- 1月 1日(日) クリスマスオリジナルツリー作り。
- 1月 1日(火) 午後4時30分～ 合同子どもクリスマス会
- 1月 2日(日) クリスマス会、もみの木パーティー。プレゼント交換をします(一人30冊以上のプレゼントを用意)。  
この日は、キャロリングの後、教会学校高学年のお友だちとのお泊まりクリスマス会があります。
- 1月 3日の教会学校はお休みです。新年度は2007年1月7日から始まります。

## たのしい学習塾

小学校1年生～4年生対象(教会学校登録者に限る)

日時 ...毎週土曜日午後3～5時

場所 ...西宮公会堂 1階集会室(日によって異なります)

参加費 ...450円(月/約4回、教材費含む)

小学校5年生以上(教会学校登録者に限る)

日時 ...毎週土曜日午後7～9時

場所 ...西宮公会堂 1階集会室

参加費 ...450円(月/約4回、教材費含む)

申し込みを希望される方は事務所までお申し出下さい。

## まいの勝手に何でも案内

こんにちは。気づけば師走。2006年がものすごい勢いで走り去ろうとしているのについて行けず、若干現実逃避したくなっている舞です。はぁ。この時期になると街も人も猫も杓子もクリスマス一色で、ワタクシはカフェ兼ケーキ屋のようなところでバイトをしているせいもあり、12月後半の予定だけがやたら埋まっていきます。中高とキリスト教系の学校で六年を過ごした身としては、クリスマスの賛美歌を思いきり歌えないのが寂しくもあるのですが、街や店のイルミネーションやら雰囲気を楽しもうと思います。あとは澄んだ空気と夜空の綺麗さ。オリオン座がすごく綺麗に見えるのに気づく度、あぁ冬なんだなぁと思って嬉しくなります。冷え性のせいで手足鼻先が半端なく冷たくなるという弊害もありますが……。やっぱり四季がハッキリしている国に生まれて良かったと思います。春夏秋冬全部好きだー！！

というわけで2006年を締めくくるに何を紹介しようかととても迷ったんですが、迷っているうちに締め切り当日となってしまいました。最後までダメダメやなぁと思いつつ、これまで連載では触れてないけれど私の生活の中でそこその位置を占めている、バイト関係の紹介をしようと思います。ええー、前述の通り

、カフェのようなところ(何故カフェと言い切れないかということ、大学近くにあるため、学食のような様相を呈すことも多々あるからなのです。パスタ屋と言った方が正しいかも)で働いて、一年ちょいになります。生まれて初めてのバイトで、最初はテンパったりヘコんだりばかりの日々でしたが、最近やっと様になってきたかなぁと思います。元々紅茶やらケーキクッキーやらが食べるのも作るのも大好きで、それが講じて始めたバイトなので、仕事自体は性に合ってるし、実際ドリンク作りの腕は上がりましたし、ケーキにも詳しくなれました。一緒に働いてる人もカフェ好きな人ばかりなので、京都カフェにもやたら詳しくなってます。お財布と体重にどう響いてるかは余り考えたくないですが……。まぁ勿論良いことづくめではないんですけど(実際早く辞めようと思った時期が結構あった)良いバイトを見つけたなぁとは思ってます。料理もケーキも美味しいですし。学生向けでお財布にも優しいし。「まりこうじ」っていう、京野菜などを使った和風創作パスタとケーキのお店です。正しくは、カフェ、レストラン部分が「Loft Mar ケーキ屋」部分が「CAK 鞠小路」と言います。「まりこうじ」っていうのは道の名前で(京都は碁盤の目のように道が走ってい



て、全ての通りに名前がついているので、それだけで大体位置を把握できます) 京大のすぐ近くにありません。もし京都においでの際は是非お立ち寄りください。

で、今回は、私がそんなバイトで身に付けたものを一つ、紹介しようと思います。これを作ってストックしておく、ちょっと凝ったドリンクやらデザートが作れるかな、と。まあ少し料理上手な方ならご存知だとは思いますが「キャラメルソース」です。プリンのカラメルのゆるいやつです。作り方は至って簡単、カップ1の砂糖と水大さじ1~2ぐらいを鍋に入れて火にかけて、砂糖が溶けたら混ぜずにほっといて、焦げて色がついてきたら鍋をゆすって、コーヒー色ぐらいになったところでそれ以上焦げ付くのを防ぐために水を足して、はちみつぐらい(もしくはそれ以下。お好みで)のゆるさになるように調節して、冷やして出来上がりです。百均のソース入れみたいな容器に入れて冷蔵庫で保存すればかなりもちます。で、これをどう使うかというと、まず、牛乳に一さじ入れるだけで、キャラメルミルクになります。アイスでもホットでもいけて、冬ならホットキャラメルミルクに、ラム酒を垂らすとすごく暖まります。エスプレッソメーカーがあれば、キャラメルカプチーノも簡単にできます。また、パンケーキやらフレンチトーストやらにかけてもホロ苦さがアクセントになって美味しいし、見

た目にもキレイです。最初は水加減やタイミングがうまくいなくて鍋に焦げ付いて悲惨なことになるかもしれませんが、所詮は砂糖なんで、お湯で溶かせば何とかかなります。上に書いた分量も結構いい加減なものですし、応用はいくらでもできます。後から加える水を、牛乳やら生クリームにしても、保存はきかなくなりませんが美味しく作れると思います。クリスマスにちょっと凝ったドリンクを作りたいときなど、是非使ってみてください。

さて、そんな感じでいい加減なお料理教室になってしまいましたが、今年はこれで終わりです。ご愛読有難うございました。来年もどうぞお付き合いください。

Merry Christmas  
(高橋 舞)



【NISIKITA アジャンのクリスマス】

12月1日～24日 アジャンのクリスマススタンプカード  
 キノシタ酒店(にしきた商店街内) アクタ東館2Fインフォメーションにて抽選を行っています。期間中にスタンプを6つ集めて、抽選会場にてステキな賞品が当たるガラポンにチャレンジして下さい(先着1000名)

12月1日(金) 17:30～  
 イルミネーション合同点灯式

12月2日(土) 10:30～  
 人形劇 みのむし

12月2日(土) 14:00～  
 ワイン当てゲーム

12月3日(日) 13:00～  
 歌って遊んでネバーランド

12月10日(日) 14:00～1  
 マイム・バラエティショー  
 場所: SHIOSAI  
 (1ドリンク付500円、要整理券)  
 15:30～16:00  
 場所: アクタ円形デッキ

12月16日(土) 16:00～  
 フランス音楽を楽しもう(シャンソン&PACオケによるクリスマスコンサート) 場所: 西宮公会堂

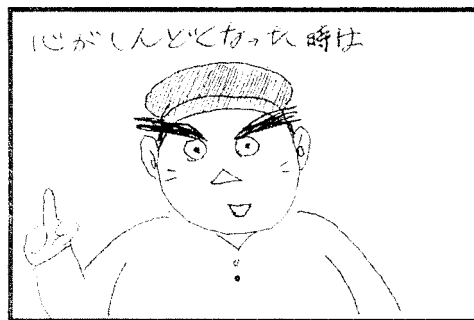
12月17日(日)～19日(火)  
 クリスマスグッズ展  
 場所: アートガレージ

12月23日(土) 9:00～  
 クリスマスもちつき大会  
 場所: 西北菓子工房前  
 14:00～  
 場所: 高松公園

12月23日(土) 18:30～  
 キャンドル点灯  
 19:00～20:00  
 コンサート  
 1000人のキャンドル  
 場所: 高松公園

お富ちゃん さあお画

どとうの30年



## 今月のあ・そ・び サンタクロース

クリスマスには、サンタクロースのことなど、たくさんの遊びがあります。もともとが“無名”の人であったイエスの“誕生物語”のことは、マタイ福音書とルカ福音書です。マルコ福音書はいきなりその活動から描き始め、“個人消息”については断片的に少しだけ描いています。

サンタクロースは、この国の子どもたちにとっても重大問題です。12月25日のクリスマスの日の朝、子どもたちにプレゼントを運んでくるのはサンタクロースです。

そのサンタクロースが“ほんとうにいるの？”の疑問に、絶妙の応答をしているのが「サンタクロースってほんとうにいるの」(てるおかいつこ文、すぎうらはんも、絵、福音館)です。開高健の「三つの真実にまさる一つのきれいなウソ」を紹介している文章を読みました(桐野夏生、佐野真一・対談、青春と読書、集英社)。

「サンタクロースってほんとうにいるの？」のお父さんは、きれいなウソが語れる人です。そのきれいなウソはそれを語るだけでは聞いてもらえません。子どもたちの問いに耳を傾ける位置にいないくは、聞くことも聞いてそれに応答することもできません。

「さむがりやのサンタ」(レイモンド・ブリッグス作・絵、福音館)が、

子どもたちにサンタクロースを伝えるのに成功しているのは、同じようにきれいなウソとしてそれが描かれているからです。きれいなウソは、ごまかしのないウソは、もう一つの現実としての力を発揮します。

「クリスマスのまえのばん」(クレメント・ムーアぶん、ウィリアム・デンスローえ、福音館)は、後にサンタクロースと呼ばれるようになった、セントニコラウスの物語です。サンタクロースの“起源”のことが知りたい時は、クレメント・ムーアの「クリスマスのまえのばん」にそのことが描かれています。

「クリスマス・クリスマス」(角野栄子さく、福音館)は、サンタクロースとクリスマスの起源やそれが世界でどんな風に祝われたりしているかを訪ねる旅です。クリスマスはもちろんイエス・キリストの誕生日を祝うお祭りですが、“キリストのほんとうの誕生日”のことも「クリスマス・クリスマス」には書かれています。

今まで、広く世界の人たちがクリスマス、そしてサンタクロースのことを大切にしてきました。子どもたちを中心に家族が一緒にいるこの喜び、平和であることの願いなどを、人はクリスマス、サンタクロースにたくしてきました。

(菅澤邦明)

## つとがわ 編集後記

今月から、高瀬建三さんの4コマ漫画連載が始まります。高瀬さんは介護ヘルパーとして主として障害者の介護を仕事にする、自身も“障害者”です。4コマ漫画のモデルは、阪神障害者解放センターの福永年久さんです。とうてい4コマにはおさまりそうにない福永さんが時には元気に、時には落ち込んだりもして登場します。高瀬さんから一言。「・・・生きていたら、いいことがある。人生はゆっくり、ゆったり、ぼちぼち。焦らずに前を向いていればいい。」

(K)

先日、心齋橋そごうで『安野光雅の世界展』というのがあって出かけてきました。安野さんの絵はどこか懐かしい感じがして大好きです。片付かないからもうあまり買わないと決めていたのに、また、絵本が増えてしまいました。でも「安野さんコーナー」を作ろうと、ウキウキしています。どんな風にしようかなー

(I)

この間、友達から四国に行ってきたと言う話を聞き羨ましく思っていたら別の友達も四国へ行くとの事。“UDON”映画の影響なんだろうか...!?食べに来ている人達の車はほとんど近畿ナンバーだったとか。うどんを食べる為に一時間以上も並ぶというお店があり麺がなくなり次第閉店するらしく、ビックリです!

(Y)

子どもたちと一緒に武庫川の河川敷にコスモスを見に行きました。一面のコスモスはとーっても美しく ウツリ~ しました。一面ピンク色!まさに「秋の桜」でした。家から見える山は赤や黄に染められていてとてもキレイです。コスモスに紅葉に、この季節はととてもステキだな~と感じています。

(N)

11月23日は、久しぶりに会う大学時代の友達と、大好きなアーティストのライ

ブに行きました 日頃の疲れなんて一気に忘れてしまうほど癒されました 自分の作った音楽でたくさんの人に感動を与えられるなんて素敵ですね。私自身もそういう仕事をしたいな~と感じました。

(Y2)

紅葉が美しい!朝出勤してくる時、また陽のある時間に車を走らせながら目に入る景色に、「緑がなくては生きていけない」と真剣に思う。

洗濯機がピーピー言って動かず「U12」の表示が。夏のトラブルはU16、“排水フィルターのチェック”だった。さて12は?仕様書を探すが夏にどこかへ置いたらしい。ない!しかしこの洗濯機、にぎやかな奴だ、次々に人をバタバタさせて!で、やっと説明書を発見、そういうものをまとめてしまってあったところから夏に出して、そのまま洗濯機の横の棚においていただけ。で、息せききってページをめくる。U12、U12~と。目に飛び込んだのは「ドアが閉まっていない」!!。そりゃあご親切に、ありがとう、ほんとだわ。きっちり蓋がされていなかった。もっともらしくU12なんて言うな。

緑に目と心を癒されながら、あちこちでバタバタと無用に、物忘れのひどさも加わって奮闘している毎日。今年もあつと言う間に1年の終わりの月を迎えた。

(J)

